第１章　ＧＩＧＡスクール構想

文部科学省のＧＩＧＡスクール構想を受け、本県においても全児童生徒が１人１台端末を用いて様々な学習に取り組んでいます。ＩＣＴを最大限に活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られるよう求められているところです。ここでは、本地区における４つの取組を紹介します。

１　学校間の連携の事例

(1) 小小連携の取組

小規模校が集まるＡ中学校区の３小学校では、小規模校の「多様な考え方に触れにくい」、「学び合いや切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」という課題を解決するため、３校がリモートでつながり、各学年で実践を行っています。リモートでの毎週１回の合同朝の会や単元を通した合同授業、合同社会科見学など、様々な「遠隔教育」に取り組んでいます。

本年度は、昨年度の反省を生かし、日課表を揃えて交流しやすくしたり、学校行事の一部を合同で実施したりするなどの工夫・改善を行いました。また、定期的に同学年の児童がリモートを通して交流することで、中学校への進学に向けて児童同士の相互理解が深まることにもつながっています。

《実践例》３校合同でのリモート社会科見学

那須烏山市の太鼓店とリモートでつなぎ、３校合同で学習を行いました。伝統的な和太鼓の製作や「山あげまつり」についてのインタビューを行ったほか、和太鼓の実演などをライブで視聴しました。他校の児童からの質問やその回答を聞き合うことで、学習が深まりました。

(2) 小中連携の取組

本年度、ＩＣＴ活用推進事業の研究校としてＢ中学校区を指定し、「各教科等の授業で１人１台端末やクラウドサービスを活用した効果的な学習方法」、「小中一貫での外国語教育における効果的なＩＣＴ活用」をテーマに２小１中で研究に取り組んでいます。

年度初めにＢ中学校区のＩＣＴ活用推進部会において、９年間を見通した指導内容の系統表を作成し、足並みを揃えた指導を行うようにしました。また、定例会での各校の取組状況の確認や教材の共有、小中合同で授業研究会を実施し、効果的なＩＣＴ活用の在り方についての研究を行っています。

B中学校区　義務教育9年間を見通したICT活用における指導内容系統表　～GIGAスクール構想実現に向けて～

学年	ICT活用目標	目標を実現するための活用の具体例		
		授業（学習）での活用	日常生活での活用	情報の収集・整理・分析、振り返りでの活用
小１・２	見て<u>慣れる</u>	○教員がICTを活用した授業を行い、様々な使い方（資料の提示など）があることを学ぶ。 ・フラッシュカードの利用 ○３・４年生の活用の様子を参観する。	○上級生の活用の様子を参観する。 ○保護者への連絡事項を家庭で保護者と児童が一緒に確認する。 （持ち帰り実施後） ○朝の会での活用（健康観察の実施）	○紙媒体での情報の記録・収集 ○３・４生が作成したものを見る。
小３・４	<u>使ってみる</u>	○アルファベットの識別ができ、ローマ字の入力ができるようになる。 ○小テストなどにローマ字入力できる。 ○反復学習やドリル学習で使用することで、学習内容を習熟させる。	○朝の会での常態化を図る。 ・朝の学習での活用 ・chromebookの起動　・ログイン（１人で） ・キーボードの使用 ・連絡事項の確認 （以降の段階では継続して行うため記述は省略）	○授業や、学校生活で得た情報を指定された形式などを に記録することができる。 （電子媒体での情報の記録・収集） ※紙媒体を０にするのではなく、徐々に移行していく。 ○５・６年生が作成したものを見る。
小５・６	<u>１人で</u> 使いこなす	○指定された形式で「ドキュメント」や「スライド」などの資料を作成し発表することができる。 ○自分で単元を選択し、反復学習やドリル学習で使用することで、学習内容の習熟を図る。	○帰りの会での常態化を目指す。 ・１日の振り返りを入力する （以降の段階では継続して行うため記述は省略） ○情報モラル教育の実施（著作権や肖像権等） ○児童会活動やクラブ活動で活用する。（使ってみる）	○授業や学校生活で得た情報を記録・整理することができる。 （情報の記録から整理へ）
中１	<u>家でも</u> 使いこなす	○よりわかりやすい資料を作成することができる。 ○自分で作成した資料を基に、意見交換などにより、対話的な学びを行う。 ○反転学習により、学力の向上に向けて、より効果的な家庭学習に活用する。	○学校生活での常態化を目指す。 ・宿題の確認及び提出 ・明日の予定の確認 ・カレンダー機能の利用 （以降の段階では継続して行うため記述は省略） ○生徒会活動等で上級生の使用方法を一緒に体験する。 ○情報モラル教育の実施（SNSなど家庭での使い方等）	○授業や学校生活で得た情報を整理し、分析することができる。（情報の記録・整理から分析へ、成績等も含む）
中２	<u>自在に表現</u>する	○必要に応じた資料を作成し、わかりやすく相手に伝えること（プレゼンレーション）ができる。 ・わくチャレや総合のまとめなどで活用する。 ○次時の学習に受けてインターネット等を利用して、より深い学びにつながる準備をする。 ○自己を分析した結果をもとに、つまづきを改善するための学習で活用する。（自己の学習を分析した結果を活用する。）	○主体となって活用し、学級活動、生徒会活動等で使用し、使い方の習熟を図る。 ○情報モラル教育の実施 （個人情報の取り扱い方等）	○学校生活の中で情報の記録・整理・分析を継続して行うことで、自分の学習や生活を見直すことができる。
中３	使うのが<u>自然</u>	○将来設計に基づいて、学習・進路選択に必要な情報を収集し、活用する。 ○より深い学びを実現する。 ・様々な高校入試問題などを検索し、学習への見通しをもつとともに、課題を解決し、振り返りを行う。	○情報モラル教育の実施 （過去の事例から学ぶ等） ○進路実現に向けた活用 ・情報の収集及び整理、記録 ・家庭学習での活用	○将来設計に基づいて、これまでの記録を管理するとともに、自分の学習や生活を見直し、改善するために活用することができる。

《実践例》ＩＣＴを活用した中学生による読み聞かせ

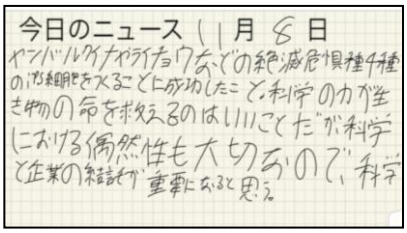
小学校とリモートでつなぎ、中学生が英語で「ピーターラビット」の絵本の読み聞かせを行いました。デジタル教科書を利用して紙芝居風に行いました。先輩の流暢な英語に、小学生たちは目を輝かせながら聞き入っていました。

2　端末の持ち帰りに関する取組の事例

(1)　持ち帰った端末でデジタルのよさを生かした取組

１人１台端末を家庭に持ち帰ることにより、家庭学習は児童生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動や課題解決に取り組む機会となっています。

生徒の社会的事象への関心が低いことを課題として捉えていたＣ中学校では、生徒自身が気になったニュースや新聞記事に対する考えをカードに記入し、データで教師に送信することを家庭学習の課題にしました。生徒は、インターネットを使ってニュースや記事の詳細を調べ、図や画像を加工してカードに貼り付けたり、端末に蓄積された以前のデータを参考にしたりするなど、デジタルのよさを生かして意欲的に課題に取り組みました。また、教師は生徒から提出されたカードを一覧にして表示することで、課題の提出状況を確認しやすくしました。さらに、添削した課題を生徒に返却する際の作業量と時間を削減できたことで、教師の仕事を効率化できました。



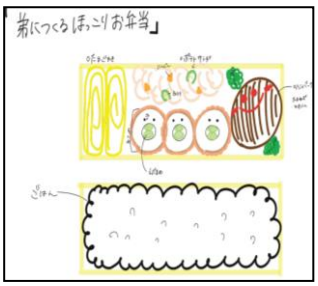
【データで提出した課題】

１人１台端末を活用した家庭学習により、生徒の社会的事象への関心が高まるにつれ、社会的な問題について友人と意見を交わす姿が見られるようになりました。今後は、家庭学習での取組を基にして「協働的な学び」につなげていくことで、個の学びを更に深めていきます。

(2)　栄養教諭、保護者の協力を得て行った食育の取組

保護者の協力が必要な教育活動においても、持ち帰った１人１台端末は有効に活用されています。食育の一環として各中学校で実施している「お弁当の日」の昼食時には、生徒がデザインして作った弁当が机上を彩ります。

Ｄ中学校では、１人１台端末を活用しながら「お弁当の日」の事前指導を行いました。これまでは、計画用紙や「お弁当作りのポイント」等のプリントを各家庭に配布し、保護者の理解と協力を得ていました。本年度は、スライドで作成した資料を端末で持ち帰り、保護者と生徒が一緒に確認することで、より保護者の理解と協力を得ることにつながりました。さらに、「お弁当作りのポイント」等のスライド資料は、全体指導でも有効に活用できました。



また、担任と栄養教諭が端末で情報を共有しながら生徒への支援を行うことができたので、打合せや一斉指導の時間を大幅に削減することにつながりました。

これまで、「お弁当の日」当日は、昼食時に弁当の写真を撮影していましたが、本年度は持ち帰った端末を用いて生徒が自ら撮影し、共有することができました。当日の朝に生徒から送られてきた、作りたての弁当写真やコメントからは、苦労の跡や完成の喜び、毎日食事を作ってくれる家族への感謝が感じられました。

3　チャット機能の活用による職員間の情報共有

町内の小中学校では、Google のチャット機能やドライブ機能を使うことで、学校間や教師間での情報共有を可能にしています。こうした機能を使うことで、校内の連絡を円滑にしたり、トラブルシューティングの情報を蓄積したりしています。

また、町内の研修会などでは、当日の資料等を共有ドライブに保存し、参加者全員が情報をデータで共有することで、資料のペーパーレス化が進められています。

４　学習者用デジタル教科書及びタブレットの活用事例

(1) 学習者用デジタル教科書の活用事例

ア 小学校高学年の活用事例（国語）

Ｅ小学校では、国語の学習で学習者用デジタル教科書を活用しています。新出漢字の学習の際にデジタル教科書を用いることで学びに効果が見られました。個々にタブレット上で読み方、書き順、部首等が確認できるため、児童はそれぞれのペースで学習を進められます。また、定着させる場面では、漢字フラッシュカードを活用しています。授業では、主に書き込み機能やスタンプ機能を活用し、デジタル教科書に線を引いたり、自分の考えを書き込んだりします。デジタルである利点として、何度でも修正することが可能です。電子黒板に表示されている指導者用デジタル教科書を見ながら、タブレットに書き込み等ができるため、学びやすい環境が保障されます。家庭学習では、反転学習として音読に活用しています。初めて読む文章にルビふり機能や読み上げ機能を使うことで、範読を聞いてから授業に臨むことができるので、安心して学習に取り組むことができます。

イ 中学校の活用事例（外国語）

Ｆ中学校では、英語の学習でデジタル教科書を活用しています。タブレットを持ち帰り、反転学習として新出文法に関する動画を視聴しています。音やアニメーション等の情報から、新出文法の使用場面をイメージすることができます。知識をもって授業に臨むことができるため、学習効率が高まります。授業では、生徒が必要に応じてデジタル教材を視聴し、英文の構造について確認をしています。これまでの一斉授業とは異なり、生徒自ら学び方を選択するなど、個に応じた学びを実践することができています。また、習熟度を高めるため、リスニングテストの復習に活用しています。授業中は音声のみでテストを行っていますが、その復習に個々にデジタル教科書を用いることで、文字としても確認することができます。「音声の再生方法」や「文字の表示方法」の設定を変更することで、個に合わせた復習をすることができています。これらの活用を進めることで、生徒が自主性をもって一人一人のペースで学ぶことができ、学習意欲と自己肯定感の向上につながっています。

(2) 小学校低学年児童のタブレットの活用事例

Ｇ小学校では、１年生から段階的にタブレットの利活用を進めています。４月は、朝の学習の時間を使って、タブレット利活用に関するオリエンテーションを行いました。児童は取扱い方について学んだり、前年度のタブレットを利用した学習活動の様子を見たりすることで、タブレット活用への期待感を高めました。カメラ機能は、低学年児童でも容易に使うことができます。生活科においては、タブレットを持って学校探検に行き、探検後は、撮影した画像を見せながら「どこでしょうクイズ」を行いました。タブレット利用により、対話が生まれ協働的な学びにつながりました。また、アサガオの観察をするために、定期的に写真を撮りました。データとして記録に残すことで、成長過程を振り返ることができ、学習目標の達成に迫ることができました。「Jamboard」は、手書きができるため、低学年児童でも活用しやすい学習アプリです。利用回数を重ねることで、操作に慣れ親しむことができました。ペアやグループでシートを共有し、多様な意見に触れることで自分の考えを深めました。児童は、タブレットの新しい活用方法を知り、楽しみながら授業に取り組んでいます。